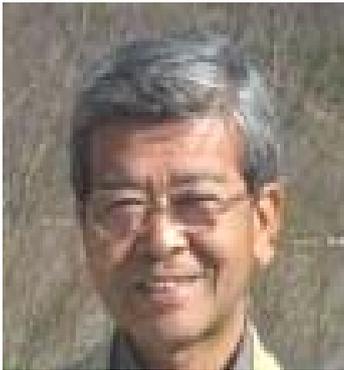




## 平成22年度のご挨拶

平成22年6月1日



昨年度に引き続き平成22年度の会長を拝命致しました比留間哲生でございます。昨年度は画期的な政権交代が現実のものとなり横環南線計画が、民主党の施政方針からして当然凍結

から廃止の方向となることを期待しました。

しかし、皆様ご高承のように「コンクリートから人へ」の看板は、この度の参議院選挙に向けて検討中のマニフェストでは取り外されそうとしています。やはり官僚の敷いてきた路線を守る方向に舵を切ろうとしているわけです。この政権発足以来、私たちは国民目線という言葉を受けて立法府の中に入り込み、あらゆる場で現在までの道路行政の異常さを訴えてきました。

司法に対しては行政の不当な継続決定の取り消しを求め東京高裁に控訴手続きを行ったところです。

3年後までに実行に移されない道路計画には予算をつけないとの方針といたしながら政府は今年度の予算措置をしました。横環南は27年度供用でこの基準をクリアーしていますが重点政策という名の下に予算が付けられたわけです。

つまりこの2~3年の内に見直す事業評価の新基準で再評価してこの計画を廃止に追い込むためには今年度は非常に重要な年となります。この国家財政の困窮な時、皆様とともに国のためにも連協当初の目的を達成したいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。

(会長 比留間)

## 22年度役員リスト [○印 新任]

役員名	氏名
会長	比留間 哲生
副会長	田中 克己
副会長	高村 信夫
副会長	近森 仁
副会長	○松本 昌司
事務局長	長谷川 誠二
事務局総務	岩倉 正剛
編集長	和田 雄偉
HP担当	本田 瑛美
環境部長	鈴木 伸之
副部長	高村 鈴子
副部長	横地 美農里
法都計部長	青木 達喜
副部長	永田 親義
副部長	高村 信夫
会計	関口 豊子
会計監査	佐藤 昇
顧問	柴田 哲夫
顧問	○中嶋 仁

(注：連協の新年度は、6月から始まります)

## 活動報告

- 5/10 参議院 院内集会参加  
「無駄な公共事業の徹底見直しを実現する全国大会 その2」(主催：同名実行委員会 後援：公共事業議員チェックの会)
- 5/13 かながわ大気汚染・道路公害連絡会
- 5/14 県庁都市計画課訪問 (高速横環南線の都市計画見直しの必要性に関わる事前協議)
- 5/27 光田区長との面談 (栄区街づくり行動計画に対する抗議要請に関する区長回答書の受領及び関わる協議)
- 6/02 県庁都市計画課訪問 (松沢県知事に対して高速横環南線の都市計画見直しを行うよう要請書を提出)
- 6/03 第37回全国公害被害者総行動デー参加  
霞が関デモ行進、国交省道路局交渉 (道路全国連関係者)、日比谷公会堂での総決起集会
- 6/03 道路全国連幹事会 (於：日比谷公会堂会議室)
- 6/03 東京高裁に不服控訴 (4/30) の理由書提出  
(東京地裁における審査請求却下取消し訴訟の判決不服控訴)

## 「地権者トラストの会」の 土地を訪ねて

「地権者トラストの会」は1994年発足以降、横環南線建設に反対する土地所有者のご協力を得て田谷、原宿、小菅ヶ谷の道路予定地3ヶ所に地権者トラストを成立させて参りました。



左写真の農地の一部、右写真の駐車場の一部がトラスト地です。

5月9日「地権者トラストの会」メンバーと連協役員有志は合同で16年を経過して買収の進むトラスト地周辺を視察し、ご高齢ながら今も建設反対の強い姿勢を貫ぬき通されている元地主の方々に連帯のご挨拶とお礼を申し上げて来ました。(柴田)

## 全国公害被害者総決起集会

全国各地から集まった公害被害者諸団体は6月3日正午よりデモ行進、14時より団体ごとに関係する省庁と団体交渉や申し入れを行った。18時から東京の日比谷公会堂を会場として、「第35回全国公害被害者総行動総決起集会」と銘打って、日本全国から89団体、1,250名の参加を得て集会が行われた。



各地の大気汚染、薬剤被害、道路・環境公害等の状況報告がされ、今後も一層の連帯を強め一致協力する事を確認した。



道路関係での比留間会長報告  
連協からの参加者10名

## 鳥の子育てに学ぶ 庄戸 大澤 幸子

庭の雑草を集めて玄関ポーチに戻るとまだ数本の枯枝が落ちている。「あれ、」と思って見上げると玄関灯の上から身動きもせずはこちらを見つめている雉鳩と目が合った。「あ、抱卵だ。」思わず大声をあげた。ここ二、三日前から、ドアの前に枯枝が落ちているのでその都度片付けてきた。そして玄関灯の上に不格好な枯枝塊を見つけたが、まさかこれが巣になるとは思いもしなかった。それ以来、常に動かず抱卵している。雌雄交代であろうとは思いますが辛抱のいることである。

しかしながら子育てにかかる情熱には脱帽である。祖先以来の「刷り込み」によるかも知れないが、人間の忘れていた大切な心構えを教えてもらった気がする。こんな巣では孵った雛が落ちてしまうのではないかと、新しい心配事も増えたがそれもまた楽しみの一つかもしれない。

考えてみるとこの地に転居して早や二十五年。雀蜂が玄関屋根の下に大きな巣を作って大騒ぎになった事、絶好のよい巣でありながら子育てに使われなかった巣など、木々の茂った土地ならではの思い出が多い。

せっかくの綺麗な空気と緑の大地に、自然を破壊する無駄な高速道路を建設し、そのツケを子孫に残すような事をしてはならないとつくづく思っている。